

悲惨な姿、声もなく

水俣病巡礼団、患者を見舞う

市に“市民の一斉健診を”要望

東京―水俣病巡礼団が十一日、水俣市役所を訪れ、市に対して市民の一斉健診などを要望した。

一行は埼玉県与野市、砂田明さん、三浦地球座俳優ら十一

人で、さる四日東京を出発して以来、途中太平洋沿岸、瀬戸内海沿岸の工場地帯や公害地を訪問し、水俣病患者支援のカンパや署名を呼びかけてきた。約四十人の署名

も集まり、カンパは六十二万円にのぼったという。

八日目の十日夜、目ざす水俣市に到着、十一日は午前十一時半から市役所を訪れた。浮池市長は不在で渡辺助役が応じた。巡礼団は①市民の中に水俣病の疑いのある人もいるはずだから市民の一斉健診をせよ②水俣病の対策としてなにをやったか③水俣病補償処理委一任派だけを援助せず、訴訟派にも活動資金などの援助をせよ④処理委の補償は低額だったと思わないか―などたじた。

これに対し渡辺助役は①疑わしいと思われる人は県公害被害者審査会に申請出来る。申し入れによって受け付けている②原因究明などについては県や国に陳情を繰り返した。患者の治療に湯の尻リハビリを建設した。今後の問題としては胎児性患者や軽症で仕事の出来る人のためのコロニーを建設しなければならぬと思っている③一任派、訴訟派とわけへだてたことはない。処理委の費用(約四百八十万円)は国に代わって立て替えたもので、裁判は国の機関で国の費用で行なわれるものだ④人命のことで安い高いなどは言えるものではないと答えた。

しかし一行は浮池市長が不在だったため、改めて十三日に訪問すると告げて引き揚げた。午後からは胎児性患者など収容されている湯の尻リハビリテーションに衣類などを持って患者を見舞った。

入ったが、悲惨な姿に巡礼団はこどももなくつ立つたままだった。夜は患者家庭が船を出して夕チウオ釣りで歓迎した。なお一行は十二日で集団行動をとり、費用の続く限り水俣にとどまるが、あとは個人行動をとることにしている。

水俣病対策市民会議の目吉フミ子会長の案内で、患者たちの部屋に